



プレゼントツリーは
2025年1月、20周年を迎えます。



年次報告書

2024

Annual Report





プレゼントツリーとは？

大切な人へ、 そして大切な地球へ。

をコンセプトに、2005年からスタートしたプロジェクト。全国各地の少子高齢化の進む開発跡地や再造林未済地、被災林など森づくりが必要とされる土地に樹を植えて、ご自身または大切な人にその樹の里親になっていただき、植樹・育樹を介してご縁のできた地域との交流を増やすことにより、森だけでなく地域も元気にしていきます。



20周年に寄せて

プレゼントツリーをご支援頂いている皆様へ

認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所
理事長 鈴木敦子



プレゼントツリーのしくみ

①PC・スマホから
プレゼントツリーお申込み



②寄附金のお支払い



特徴 1. 地元との「4者間協定」

森林所有者、行政、地元の森林管理
施業者、当団体の4者で、10年間
の森林保育管理体制を担保します。



③施業費・10年間保育管理



④植樹証明書等の発送



現地協働者
(森林組合等)



⑤苗木を介したご縁



苗木の里親

里親に送付されるもの

- ・植樹証明書
- ・送り主からのメッセージカード
- ・リーフレット一式



▲フレームに入れた例

特徴 2. 植樹証明書

1本ごとに樹の管理番号を割り振り、受け取る方のお名前を記載した「植樹証明書」を発行しています。メッセージカードも添えることができます。



特徴 3. 地域まるごと元気にする！

里親が樹を植えた土地に愛着を持ち、そこに足を運ぶことで「関係人口」が生まれます。都市と森林地域の交流で、森が潤います。



2024年も日本各地で自然災害が多発し、プレゼントツリー協働者皆様へ御見舞い申し上げます。改め、被災された地域の皆様の一日も早い再建をお祈り致します。

ポランティア元年とも呼ばれた1995年、NPO法成立のきっかけとなった阪神淡路大震災では、被災地に多数の災害ボランティアが集まりましたが、当時の我が国生産年齢人口は総人口の7割でした。現在、その数は6割を切っており、復旧復興活動における人手不足の話を聞くにつけ、日本の少子高齢化・人口減少が深刻化していることを痛感します。

2120年、日本の総人口は最悪の場合で、現在の4分の1近くまで激減することが予想されていますが、その100年後に日本の森を美しいまま引き継ぐために、プレゼントツリーは存在します。

「記念日に樹を植えよう!」と呼びかけ、各地の再造林未済地や災害跡地等裸地に樹を植えて、都会の個人・法人がその樹の里親となり、大切な記念樹として以後10年間、地元と交流しながら共に育てていくこの活動は、人が偏る都会から過疎の進む地域に人の流れを創り、森と周辺地域を守り続けようとするスタートし、2025年1月で20歳になります。ここまで育ったことは、偏に、皆様方のお陰様と、改めて厚く御礼申し上げます。

20年前、プレゼントツリーの森づくりを始めようと、業界関係者に事業説明をした際には、「樹は伐って売ってなんぼの世界。立木の里親になって資金援助することなど誰も興味は無い」と一刀両断されることしきりでした。今、里親の皆様が育てられてきた40万本超の立木が、しっかりと森の一角を担っている事実を、感慨深く噛み締めています。

そして、スタート当初から、深い御理解と共に温かく御指導頂いてきた北海道大学・吉田先生には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

プレゼントツリーでは、40万本超の木の里親の皆様が各地の森の魅力は勿論、「美味しい・楽しい・美しい」等、地域の魅力を丸ごと体感頂き続けることで、当地の熱烈な関係人口を育みながら100年先まで繋いで参ります。

孤軍奮闘しつつ細々とスタートしたプレゼントツリーは、現在、林業界からも支持を頂くことができ、柔軟な理解ある森林組合や林業家の皆様に支えられています。そこにも人口減少の波が押し寄せています。

100年後の「活力ある美しい日本」のために、森と周辺地域を守り続けようとする力強い同志の皆様へ。30歳に向けて、引き続き、プレゼントツリーの抱える課題解決への取り組みにご尽力頂きますよう、心よりお願い申し上げます。



アカエゾマツの成長 北海道大学で種から苗を育て、植樹しています。



①アカエゾマツの苗木 ②6年育ててから植樹 ③厳しい冬を越える ④植樹から10年経過

Present Tree 20年のあゆみと 森づくりのこれから

プレゼントツリー 森林アドバイザー
北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授 **吉田 俊也**

北海道大学雨龍研究林と朱鞠内湖（しゅまりないこ） 写真提供：吉田俊也

大きな木に出会うと、その年齢が知りたくなります。「この木は何歳ですか？」プレゼントツリーの里親の方々に森にこ案内した際、よく聞かれる質問のひとつです。実はこれは結構難しい質問です。人が植えた人工林なら答えるのは簡単なのですが、自然の力で育っている天然林では正確に答えられないこともしばしばです。

北海道大学研究林（雨龍・天塩）のプレゼントツリーで植えている木はおもに2種類。いずれも北海道の代表的な針葉樹であるアカエゾマツとトドマツです。同じ「マツ」と付くので似た仲間仲間聞こえますが、個性はだいぶ異なっています。たとえば木の寿命で言えば前者は300年以上、後者は150年と倍の違いがあります。木の大きさを言えば、寿命の長いアカエゾマツのほうがひと回り大きく、樹高40m、直径1.5mほどまで育ちます。ただ、両樹種とも樹齢と大きさは必ずしも比例しているわけではありません。最初の質問に戻ると、たとえばアカエゾマツの直径50cm木の樹齢を調べてみると、100年強の場合もあれば300年以上の場合もあり大きくバラツキます。個々の木は、タネが落ちた場所、その環境に合わせながら（ほとんど木は大きくなることなく消えていきながら）ときに速く、たいていはゆっくり育っていきます。これは、外見からはほとんどわからないのです。

山側から見ると、プレゼントツリーの大きな意義は、「ひとつではない」「なるべく多く」のはたらきを合わせもつ森づくりを可能にすることです。各地の活動では、それぞれの地域や森の状況にあわせた目標がありますが、私たち北海道大学の場合、その目標は、単に木の「成長がよい」ことだけではなく、多様な種類の木が混じりあって育つ「混交林」を育成することに置いています。ササに覆われて木の世代交代が滞ってしまった箇所、かつて成長の速さを期待して外来樹木が植えられた箇所を、地域の森林の自然の姿である針葉樹と広葉樹が混じって育つ森に回復させたい。そのために、植樹した樹種だけでなく、自然に生えた広葉樹も残して一緒に育てていくわけです。

動物と違い、タネから芽生え、いったん根付いたら木はもうそこから動けません。隣に生えた木や草は「競争相手」です。ただ、ときに、森が自然の力で育っていく際、隣の木が「傘」となって、過度な光や温度、水不足を緩和してくれることもあります。下刈りや除伐といった作業はもちろん必要なのですが、単に機械的に行なうのではなく、木の種類それぞれが持つ個性（生き様）をていねいにくみ取りながら手がけていく細かさが必要です。

森林の育成には長い時間がかかります。木材生産を主眼に置いた現代の林業にお

さて、プレゼントツリーで最初に植樹したのは2006年秋。このときの樹種はアカエゾマツでした。現地を訪れてみると、多くの木の高さ（樹高）は現在7〜8mほど。苗木は、畑で7年育てたものを使ったので樹齢は27年になります。まだ寿命の10分の1足らず…と思う一方で、枝葉を茂らせてたくましくなった姿を見れば、よく育ったと感慨を覚えます。そして、周囲には、シラカバやミスナラなどの広葉樹も大きく育っているのが目に入ります。こちらの樹齢はほぼ20年。植えたものではなく、アカエゾマツを植えた周りに自然にタネが落ちて生えたものです。

森林のはたらきはさまざまです。水を育む、土を守る、二酸化炭素を吸収する、動物の棲家となる、人の安らぎの場所をつくる、木材を供給する…。どれかのはたらきに注目すると、森づくりの方向性が決まってきます。ただ、その目標はふつうひとつに限られるわけではありません。そして、人が森に何か手を加えたとき、その方法が、森林のはたらきをすべて「よく」してくれるわけでもありません。たとえば、木材の生産は、伐られた木が適切に使われることを前提とすれば炭素の固定にも役立ちますが、一方で、森林の伐採は、水や土・生物多様性の保全に負の影響を与えてしまいがちです。

いては、低コスト化の観点から育成のスピード（回転率の速さ）を求めがちです。それは致し方ない現状もあるのですが、もう片方の選択肢として、短期的な効率性だけではなく、環境の保全や多様性、気候変動の影響を考えた森づくりにも大きな意義があります。そうした息の長いとりくみを継続し、多くの方々に伝える役割も果たしていただいたプレゼントツリー。20年間のとりくみに心から敬意を表します。また、支えてくださった里親の皆さんにも厚くお礼申し上げます。まだしばらく先かもしませんが、植えた木が次第に風格を備え、「この木は何歳？」と聞かれるような姿に育っていくことを願っています。



吉田俊也先生
プロフィール

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 森林園ステーション 北管理部（教授）。1999年より北海道大学で研究を始め、現職。研究テーマは「生態系の保全を考慮した森林施業方法に関する研究」を中心に、森林管理、混交林、生物多様性保全など。2005年よりプレゼントツリー森林アドバイザー。

プレゼントツリー 20年のあゆみ

「たくさんの人達の興味と足が森に戻る、集まる仕組み」として、プレゼントツリーの挑戦はスタートしました。

2024年12月までの累計実績

協定林数：国内外 **55** カ所

植樹本数：**408,917** 本

企業里親数：**515** 社

個人里親数：**1,609** 名

2025 20th!
to be continued...

2024
植樹本数
40万本を
突破

40万本

2024

「Present Tree for
湘南国際村めぐりの森II」
スタート



30万本

2023.10

環境省「自然共生サイト」に
「Present Tree in くまもと山都」
が認定を受ける

20万本

2022.6 「森林×脱炭素チャレンジ
2022」林野庁長官賞 受賞

2022.6



TOKYO

2021 「Present Tree in
TOKYO」スタート

2021

10万本

2020 「Present Tree in くまもと山都」
「Present Tree in 笛吹芦川」スタート

2020



2019
植樹本数
20万本を
突破

2019



2018 「Present Tree in
中川」スタート

2018



2015
PT10周年!
イベント開催

2015

2014 「Present Tree in
みやぎ大崎」スタート

2014



2012
植樹本数
11万本を
突破

2012

2011 REVIVE JAPAN プロジェクト 始動
「Present Tree in 飛騨高山」スタート

2011

2010.6 ジャパンロマンスアワード
(ロマンスサービス部門) 受賞

2010.6

平成20年度
地球温暖化防止活動環境大臣表彰
対策活動実践部門受賞

2008.12

2007.5 「音楽の力で森をつくろう
Present Tree Live 2007」開催

2007.5

2006 「Present Tree in 北海道」
スタート

2006



2005.1
START!!

募集中の植栽地 ●
募集が終了した植栽地 ●



植樹本数の推移
※毎年1月～12月合計

0

植栽地 before & after

皆様からのご支援で、
たくさんの森が育ちました！



PT for さんむ (千葉県)
日向の森



2011



2020

PT in 球磨村
(熊本県)



2007



2018

PT in 飛騨高山
(岐阜県)



2011



2018

PT for 四季の森
(山梨県)



2009



2019

PT in みやぎ大崎
(宮城県)



2014



2019

PT for はなの森
(山梨県)



2010



2019

PT in 甲斐
(山梨県)



2014



2019



3/9 日清製粉グループ様



4/13 ロクシタンジャパン様



4/17 三機工業株式会社様 (くまもと山都)



4/19 株式会社ミナシア様



5/10 旭情報サービス株式会社様



5/11 明治安田生命保険相互会社様



5/19 シュロダー・インベストメント・マネジメント様



5/26 新生紙パルプ商事様×昭文社様

2024年もたくさんの企業さまに、全国の植栽地を訪れていただきました！

※一部、会社名を省略させていただいております。



6/1 株式会社ブロードリーフ様



6/2 キャップジェミニ株式会社様



6/7 そごう・西武労働組合様



6/19 株式会社AXSEED様



9/28 三機工業株式会社様 (甲斐)



10/5 ジェットスター・ジャパン様



10/18 オリックス銀行株式会社様



10/26 新生紙パルプ商事株式会社様

株式会社ミナシアさま

アメニティ削減を植樹で「見える化」し、
イベントは社員の交流の場として活用



4月19日、「Present Tree in 笛吹芦川」内に「ミナシアの森」が創設されました！この日は入社したばかりの新入社員22名を含む40名の社員の皆様が参加。樹を植えるのは初めて、という方も多かったのですが、皆さん頑張ってたくさん植えてくれました。植樹で汗を流したあとは、「特製ほうとう」を食べたり、間伐材を利用した「マイ箸」を作ったり、帰り際には富士山の見える公園へ立ち寄り…と山梨を満喫。来年も芦川でお待ちしています！



熊本県にある「ホテルウィングインターナショナルセレクト熊本」の「ミライの木コイン」回収コーナー。木の温もり溢れるステキなコイン、目が留まりますよね。「今後も地道に取り組んでいきたい」と担当の小野さん。

今年開催した植樹イベントでは、森づくりを実際に体験することで、私自身今まで以上に興味が湧きました。今後もこの活動を続けていきたいですし、次の世代にも伝えていきたいです。



担当の小野さん

北海道から九州まで、全国にホテルチェーン「ホテルウィング」を展開している株式会社ミナシア様。プレゼントツリーへの支援のきっかけは、2022年4月に施行された「プラスチック資源循環法」でした。使い捨ての歯ブラシやカミソリなど、ホテルにとってなくてはならないアメニティ。これをどう削減するか…と考えて辿り着いたのが、使わなかったアメニティを「ミライの木コイン」としてご提示いただく、お客様を巻き込んだエコアクションでした。この「ミライの木コイン」の枚数を植樹本数に換算し、プレゼントツリーの全国の森に植樹を行なってくださっています。ホテルのアメニティコーナーには、プレゼントツリーの植樹証明書を飾っていただいているそうです。ありがとうございます！

もう一つ、ミナシア様では今年から新入社員研修に植樹イベントを組み込んでくださっています。植樹イベントの目的の一つは、新入社員間はもちろん各エリア長・部門長との「交流」。同時期に20人以上が入社しても、配属後は全国のホテルへバラバラになってしまう新人たち…でも、このようなイベントにみんなが参加することで、つながりを深めることができます。各エリア長とも配属前に交流できたおかげで、研修後の業務スタートがスムーズだったそうですよ。

来年度の植樹イベントも、現在企画の真っ最中。開催場所は今年同様「Present Tree in 笛吹芦川」にある「ミナシアの森」ですが、ミナシア様は全国に店舗をお持ちなので、今後は全国のプレゼントツリー植栽地でもお会い出来たら嬉しいです！

プレゼントツリー×本業で、企業価値を高める！



コラボ事例集



プレゼントツリーは、2005年からたくさんの企業と協働してきました。

その中には、「寄付をする」だけでなく、

森づくりと本業を結びつけてステークホルダーを巻き込み、

新たな価値を生み出している事例がたくさんあります。

今回は特にユニークなコラボ事例を3件、ご紹介します。



詳しいコラボ事例は
▼こちらから▼



株式会社ブロードリーフさま

モビリティ産業

顧客や取引先と一緒に、楽しく活動！
会員制の環境保全活動「Grow Leaf」



6月1日に行なわれた「～緑の未来をこどもたちに、ともに育むブロードリーフの森づくり～『ブロードリーフの森 in 笛吹川川2024』」。ブロードリーフの役員・社員の皆さまと会員企業さまから計70名が参加し、ヤマザクラ、ブナ、ミズナラの3種277本を植樹しました。「ブロードリーフ」は日本語で「広葉樹」、プレゼントツリーの植樹イベントはまさに社名を体感できるイベントです。これからもブロードリーフの森がすくすく育ちますように！

モビリティ産業の事業者向けクラウドサービスを提供しているブロードリーフ様。2005年に創業、その3年後に環境保全活動「Grow Leaf Project」を開始。主な会員は顧客や取引先企業で、入会時と更新時の寄付を通じてプレゼントツリーの樹の里親になっていただき、「Grow Leaf」活動にご参加いただく取り組みです。

活動内容の1つが、植樹イベントへの参加です。これまでもプレゼントツリー主催のイベントにご参加いただいていたのですが、昨年初めてブロードリーフ様が主催となり、会員企業をお招きする独自イベントを実施。さらに今年には「Present Tree in 笛吹川川」内に「ブロードリーフの森」を創設され、ますます取り組みを加速させています。イベントに参加した会員企業からは「楽しかった！」「また参



イベント後半には「Grow Leaf」のマスコットキャラクター「アースリーフくん」「ライトリーフちゃん」も登場、会員企業さまに植樹証明書のお渡しセレモニーと記念写真撮影も開催されて、大盛り上がりでした♪

加したい」という声が聞かれるのだそう。「特に、「最近で会員になってくださる企業さまは、環境意識の高い方が多いので、すごく喜んでいただいています」と、担当の木村さんは話します。既に来年のイベント開催日も決定しており、「予定空けておくからね」と楽しみにしている企業様もいらっしゃるんですって！

その他、プレゼントツリーから生まれた苗木キット「里山 BONNSAI」を会員企業と一緒に作ったり、自分たちで拾ったどんぐりから苗木を育てたり…と、活動の幅を拡げている「Grow Leaf」。何より事務局の皆様がパワフルで、活動を楽しんでいらっしやるのが素晴らしい！プレゼントツリーも皆様の一助となれるよう頑張りますので、これからもどうぞよろしく願っています。



プレゼントツリーは植樹証明書が出るのが魅力！もっと自分たちでも森づくりができないか、いろいろ考えています。自分たちで育てた苗木を植えて、毎年成長を見に行ったり…できたらいいなあ。



(株)セールスフォース・ジャパンさま

情報・通信業



祝花代わりの植樹に大きな共感。
目指せ、アクションの輪の拡大！

「ビジネスは社会を変える最良のプラットフォームである」という信念のもと、公平で持続可能な社会の実現に向けて様々な取り組みを行っているSalesforce様。創業当時より、社会における課題解決のために、株式の1%、製品の1%、就業時間の1%を活用してコミュニティに貢献する「1-1-1モデル」を実践されています。ボランティアの経験豊富な皆様ですが、自然の中での体験は特別で、「貢献できてうれしかった！」「また活動したい」と嬉しいお言葉をたくさんいただきました。



2022年に「Present Tree in TOKYO」で行なわれた歩道整備ボランティアは、社会貢献を通じたチームビルディングの効果も。寄付して終わりではなく、実際に体験することでメンバーの意識向上につながります。

米国カリフォルニア州に本社を置く、クラウドアプリケーション及びクラウドプラットフォームを基盤とした、顧客関係管理（CRM）ソリューションの提供企業であるSalesforce様。世界経済フォーラム（WEF）のグローバルイニシアチブ「Itorg（2030年までに1兆本の樹木の保全、再生、育成を目指す）」の創設パートナーであり、Salesforceとしては2030年までに世界で1億本の樹木の保全を目指し、現在約5200万本の樹木の保全への資金提供をされています。

プレゼントツリーとの出会いは、東京丸の内にある新本社Salesforce Tower Tokyoが完成した2022年。「新オフィス開設のお祝いにいただく胡蝶蘭などのギフトの代わりになる、サステナビリティに根ざした活動はできないか」と社内で検討され、プレゼントツリーとコラボするこ

とに。「祝花をお断りさせていただく代わりに、森林保全に寄付を」と呼び掛けられたところ、なんと130社以上が賛同！中には「うちでも同じ取り組みをしたい」と、ご紹介につながった企業さまもいらっしゃいます。社内外から「Salesforceらしい取り組み！」と好評だったそうです。

一連のご寄付は「Salesforce Parkプロジェクト」と名付けられ、東京都檜原村に約4千本が植樹されました。社員さま自ら樹を植えたり、山に入るための歩道を整備したり…普段とは違う自然の中の活動は、良い経験になったはず。今後の協業や、社員による活動についても検討をいただいています。

引き続きアクションの輪の拡大を目指し、具体的な取り組みのご紹介を積極的に行われています。ぜひプレゼントツリーも力になれば嬉しいですね！

お祝いの気持ちを次世代の地球につなげていけるのがプレゼントツリーの素晴らしいところ。他の企業さまにももっと知ってほしいです。当社の事例を発信して、どんどん広げていきたいと思えます。





PT 笛吹芦川 (山梨県)

開催日程 5/12(日)

参加人数 90名

募集開始からたくさんの申し込みをいただき、急遽バスの台数を増やして対応。み子さんの参加も多い人気の植栽地。

石和温泉駅に集合してバスに揺られ、山道に登ること45分。まずは植栽地のそばにある「すずらん群生地」、そして富士山がキレイに見えるスポット「FUJYAMA ツインテラス」を見学。森林組合さんお手製の特製ほうとうでお昼ごはんをいただいてから、いざ植樹！新緑の芦川の山々をバックに、参加者に加えて地元の高校生や関係者も集い、総勢115名での賑やかな植樹祭となりました。帰りは名産のワインやぶどうジュースを試飲。ギュッと濃厚な日帰りツアーでした！

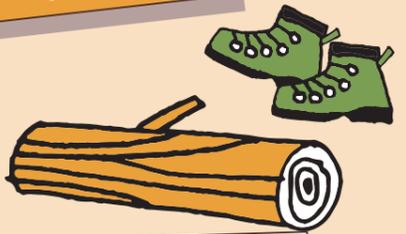


各地域の 美味しい! 楽しい! 美しい! を巡る プレゼントツリー主催 植樹イベント 2024



report

一人で・ご家族で・ご友人と・同僚と…
誰でも参加できるのが
プレゼントツリー主催・植樹イベント!
2024年は3地域での開催となりました。



PT 中川 (北海道)

開催日程 10/18(金)~20(日)

参加人数 10名

PT 中川での植樹ツアーは初、そして2泊3日も初！道北の小さな町・中川町をゆったりと楽しむ旅となりました。

旭川空港からバスで3時間、道北の町・中川町はまさしく秘境。森林率87%、町の真ん中を天塩川が悠々と流れています。化石が有名で、初日は川沿いで化石発掘を体験。2日目は木工作家の工房見学、鮭の遡上見学、木工体験。食事では地元の酪農家が育てるナカガワ牛やソーセージ、チーズも美味しかった！最終日に植樹祭と、北大・吉田先生と中川町・高橋さんによる森林散策。10月の北海道は寒かったのですが、地元の皆様のおもてなしに心が温まりました。



PT くまもと山都

開催日程 4/6(土)・7(日)

参加人数 41名

今年で4回目となる山都町ツアー。東京からだけでなく、九州の里親さんもたくさんご参加いただきました！

熊本空港から専用バスに乗り込み、山都町まで1時間ほど。初日は地元食材やジビエを使ったお料理を食べ、国宝に指定された「通潤橋」や「清和文楽」「弊立神宮」を見学。温泉宿に泊まって、2日は植樹祭です。たくさん樹を植えたあとは、美味しいお弁当を食べながら地元の方々の交流会。地元の方々の温かい歓迎ぶりに、みんな感激しきりでした！最後は温泉で疲れを癒し…。一度行ったら絶対好きになる「山都町」。リピーターが多いのも頷けます。



スタッフ紹介 & 編集後記

「プレゼントツリー年次報告書 2024」、最後までご覧いただきありがとうございます。

プレゼントツリーは認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所が運営しています。

東京・千代田区神田小川町の事務所では、理事長以下スタッフが和気あいあいと仕事をしています。

森はもちろん、ぜひ事務所のほうにも遊びにいらしてくださいね♪



事業運営事務局長
石森 英里

プレゼントツリーの森にいらっしゃいませんか！美しい風景、きれいな空気、植樹後の地産の美味しい食事…都会では味わえないひと時を、スタッフ全員でおもてなしいたします🌱

お客様窓口/橋本 奈美

森に来ると大人も子供も笑顔いっぱいになります。一緒に森で樹を植えませんか？プレゼントツリーの森でお待ちしています！



経理/宮崎 涼香

プレゼントツリーの森は素敵な出会いでいっぱいです🌱一緒に森も人も元気にいきましょう！



コンサル/横尾 景

私の趣味は釣り🎣森林と海洋環境の大切さを理解して、自分にできることを実践します。



プレゼントツリーについては、地球・森にありがとう！の気持ちを大切に、日々活動しています。日々の触れ合いとしては、家でサボテンを種から育てたりしています🌱



法人運営事務局長
名倉 誠

広報/小松 麻理子

いよいよ来年はプレゼントツリー 20 周年です！いろいろと楽しい企画も準備していますので、ぜひお楽しみに🌱



認定窓口/長島 香

管理部門でプレゼントツリーを支えています。森の中は、とても心地良いです♪



法令対応/沼里 昭

写真撮影の趣味を活かして、植樹イベントのお手伝いをしています。



樹の里親になりませんか

現在、北海道から九州まで全7カ所で里親募集中！ふるさとや縁のある土地を選ぶもよし、まだ見ぬ土地に想いを馳せるもよし。自分や大切な人のために樹を植えて、森と地域を元気にしていきますか。樹の里親になっていただいた方には、1本ごとに「植樹証明書」を発行してお届けいたします。証明書にはメッセージを添えることができるので、誕生日や記念日など、想いを込めたプレゼントにもピッタリ♡1本 4,500円から受付中です。



◀ 植栽地詳細はこちらから



各地域の

美味しい!

楽しい!

美しい!

を巡る

プレゼントツリー主催

植樹イベント 2025

一人から気軽に参加できる、プレゼントツリー主催の植樹イベント。

2025 年は全 6 カ所にて開催予定です。

20 周年記念だからこそこの企画もご用意して、お待ちしております！

ご家族やご友人、会社の同僚と…ぜひ奮ってご参加ください♪

開催決定!

2025 年春のイベント

PT 湘南国際村めぐりの森 II



4/6 日

相模湾と富士山を望む好立地！東京から近く坂のない植栽地なので、植樹初心者やお子様連れにもぴったりです♪

募集開始は 2 月下旬予定

PT くまもと山都



4/12 ± 13 日

眼下に広がる棚田と茶畑に癒されます。有機農法発祥の地である山都町は美味しいものばかり！グルメ好きにおすすめ♡

募集開始は 1 月下旬予定

PT 笛吹芦川



5/11 日

若葉の季節、芦川の美しい新緑に心が洗われます。森林組合さんお手製の山梨の郷土料理・ほうとうを、ぜひ味わって。

募集開始は 4 月上旬予定

日程調整中

2025 年秋のイベント

決まり次第、公式サイトやメール、LINEにてお知らせします！

PT 北海道

PT 飛騨高山

PT みやぎ大崎

里親企業一覧



VJA/P&G ジャパン合同会社 / 株式会社コスメロール / 株式会社ジェイウッド / 東京ガス Next one 株式会社 / 豊通マテックス株式会社 / 株式会社福岡銀行 / UK Online Giving Foundation / 株式会社富田商店 (エコペイントネットワーク) / シュロダー・インベストメント・マネジメント株式会社 / 株式会社ケイディアイ / セイノースーパーエクスプレス株式会社 / 株式会社山梨中央銀行 / 株式会社レジデンシャルインターネット / 株式会社ニフティカラーズ / 株式会社ホットフィールド / ディー・アンド・エイチ株式会社 / 株式会社ビューティガレージ / 三菱 UFJ ニコス株式会社 / 株式会社十八親和銀行 / 株式会社東海テクノ / クロスプラス株式会社 / 株式会社ホワイトハウス / 株式会社ナック (建築コンサルティングカンパニー) / 株式会社中日新聞社 / Stellantis ジャパン販売株式会社 / ドキュサイン ジャパン株式会社 / 有限会社花心 / 株式会社ほっとエコライフ関西本店 / 株式会社ブラボグループ / 株式会社ジェーシービー / 株式会社イムラ / タンスのゲン株式会社 / 日本ナショナル製罐株式会社 / 株式会社リム・プランニング / 自動車総連 / 株式会社 M&A 総研ホールディングス / ジュニパーネットワークス株式会社 / 株式会社 TD モバイル / 株式会社 NST / ヤフー株式会社 / 株式会社 Nexfort / ヤブタ塗料株式会社 (エコペイントネットワーク) / おかやま信用金庫 / 株式会社ファイブスター東都 / 株式会社 東芝 / 有限会社ココウエスト / ソウ・エクスパリエンス株式会社 / 株式会社オカムラ / サムスン電子ジャパン株式会社 / 東京センチュリー株式会社 / 日商エレクトロニクス株式会社 / 日本電気株式会社 / 株式会社セブンスター / 株式会社ビーバイ・イー / アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社 / キヤノンITソリューションズ株式会社 / 有限会社三機システム工業 / 株式会社ティール / パロアルトネットワークス株式会社 / PwC Japan 合同会社 / テラサイクルジャパン合同会社 / Interface/A.T. カーニー株式会社 / 株式会社ほっとエコライフ広島営業所 / 株式会社タカサワ / エクストリームネットワークス株式会社 / TIS ソリューションリンク株式会社 / 豊田通商株式会社 / 株式会社ネオナチュラル (ほか多数 (順不同))

 <p>大切な人へ、そして大切な地球へ。 Present Tree®</p> <p>企画・運営：認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-3-12 神田小川町ビル 8 階 ☎ 03-5283-8143 / ☎ 03-3296-8656 / ✉ ptmail@presenttree.jp</p>	<p>環境リレーションズ研究所は東京都より認定を受けた「認定 NPO 法人」です。当団体へご寄付いただいた場合、個人・法人を問わず税の優遇措置が受けられます。詳しくは公式サイト「寄付金の税控除について」をご覧ください。</p>
--	---